

13世紀末から15世紀前半ヴェローナに おける人文主義の探求について

——セネカの名で伝わる10篇の悲劇群の伝承経路に
関する考察——

北村 秀喜

序論

文学史上、フランチェスコ・ペトラルカはローマ古典を礎とした人文主義を築いた祖とされるが、それに先んじて13世紀末頃から北イタリア、特にパドヴァとヴェローナにおいて、ローマ古典の探求と、それを手本とするラテン語文学の模倣が花咲いていた⁽¹⁾。しかし、その隆盛を伝えるはずの文献の多くは、現在、ヨーロッパ各地に散逸しており、当該地に現存している文献からはペトラルカにも影響を与えたに違いないヴェネト地方の人文主義の全体像は伺い知れない。本論文の執筆者は、およそ13世紀末からヴェローナで萌芽した人文主義の足跡を追う為、現在も尚当地のカピトラーレ図書館に収蔵されている1329年編纂の『ラテン文学詞華集 *Flores moralium auctoritatum* (以下 *Flores1329* と称す)』⁽²⁾と15世紀前半のヴェローナで書き写された『ラテン文学詞華集』を伝える CITTÀ DEL VATICANO, B.A.V., Vat.lat.5114⁽³⁾の比較対照を行うことで、両本に収録された断片の伝承系統を各引用作品ごとに分析し、現在は失われてしまったが往時のカピトラーレ図書館に存在したであろう蔵書の目録を再構築することを試みた。本稿は、セネカの名で伝わる10篇の悲劇群に関

する調査結果を報告するものである。前述 2 卷の『ラテン文学詞華集』に収録された断片と、14 世紀にイタリアで写された ETON, College Library, Ms.110 及び FIRENZE, B.M.L., Plut.37.1 に書き写された同作品群は、比較対照の結果、同一の伝承系統に由来することが判明した。以下に詳細を述べる。

1. セネカの名で伝わる 10 篇の悲劇群の伝承系統

まず初めに、セネカ作とされる悲劇群の伝承系統について述べておく⁽⁴⁾。同作品群の最古の痕跡は、MILANO, Biblioteca Ambrosiana, G 82 sup (R)に残っている。同写本は 5 世紀初頭に時代を遡るパリンプセストで、5 葉に *Medea* からの 3 片と *Oedipus* からの 2 片を読むことが出来る。7 世紀には、旧約聖書の『列王伝』が上書きされた⁽⁵⁾。

Florilegium Thuaneum として知られる PARIS, B.N.F., Lat. 8071 (Th) はカロリング王朝末期に編纂されたラテン詩選集であり、セネカ作の *Troades*、*Medea*、*Oedipus* からの抜粋が収録されている⁽⁶⁾。

FIRENZE, B.M.L., 37.13 は 11 世紀にイタリアで書かれ、13 世紀末に北イタリアはアドリア海に近いポンポーサの修道院においてパドヴァの法律家ロヴァート・ロヴァーティ (Lovato Lovati) によって発見された。同写本は、メディチ家のコレクションであったことから Codex Etruscus、略して E と称せられる。E においては、偽作 *Octavia* を除く 9 篇の悲劇が *Hercules*、*Troades*、*Phoenissae*、*Medea*、*Phaedra*、*Oedipus*、*Agamemnon (sic)*、*Tyestes*、*Hercules* の題と順序で書き写されている⁽⁷⁾。Th は E と一致し後述する A と対峙する批評点が多くあるが、特有の誤読も多い。よって、E の遠縁であると考えられる。

13 世紀以降、セネカ作とされる悲劇群の写本数は爆発的に増大し、その大半は 12 世紀の後半に北フランスの修道院で書かれたと推定される写本を祖とする A 系統に属す。A は 13 世紀に入ると β と δ の下屬系統に分かれ伝承された。 β は 13 世紀初頭のイングランドに由来し、同世紀に書かれた CAMBRIDGE,

Corpus Christi College, Ms.406 (C)、EL ESCORIAL, Real Biblioteca, T. III. 11 (S) 及び CITTÀ DEL VATICANO, B.A.V., Vat. lat. 2829 (V) が同系に属す。δ は 13 世紀の北フランスで流布し、PARIS, B.N.F., Lat. 8260 (P) 及び EXETER, Cathedral Library, 3549 B (G) が同系に属す。A においては、偽作 *Octavia* を含む 10 篇の悲劇が *Hercules Furens*, *Thyestes*, *Thebais*, *Hippolytus*, *Oedipus*, *Troas*, *Medea*, *Agamemnon* (sic), *Octavia*, *Hercules Oetaeus* の題と順序で収録されている⁽⁸⁾。

2. パドヴァ人文主義におけるセネカ作の悲劇群

ロヴァーティは E を発見した後、E に基づくが A に属する S と比較対照した、独自の校本を編纂した（以下 Σ と称す）。現在、Σ は失われてしまったが、PARIS, B.N.F., Lat. 11855 (F), MILANO, Biblioteca Ambrosiana, D. 276 inf. (M), CITTÀ DEL VATICANO, B.A.V., Vat. lat. 1769 (N) は Σ を祖本とする現存写本である。この内、N は 14 世紀初頭に書かれ、ロヴァーティの甥にあたるロランドの所蔵であった事が分っており⁽⁹⁾、Σ はまずロヴァーティの近親者の間で流布したと推察できる。F も 14 世紀初頭の写本、M は 14 世紀第 4 四半期に書かれたもので、Σ の流布は 14 世紀の北イタリアに限られたと言える。

セネカ作の悲劇は、その後もパドヴァの人文主義において重要な役割を担った。法律家であったジェレミア・ダ・モンタニョーネ (Geremia da Montagnone) は、古典及び中世作品からの膨大な断片を採録した『ラテン文学詞華集 *Compendium moralium notabilium*』を編纂し、偽作 *Octavia* を含むセネカの悲劇を広く用いた⁽¹⁰⁾。同じくパドヴァで頭角を現したムッサート (Albertino Mussato) は、セネカ悲劇の解釈集 *Argumenta tragoediarum Senecae* と *Evidentia tragoediarum Senecae* を著した他、セネカ悲劇を模倣した *Ecerinide* も創作した⁽¹¹⁾。ジェレミア・ダ・モンタニョーネ (Hier) とムッサート (Muss) が参照したセネカ作の悲劇群の写本は、A の属系 β に遡り 13 世紀

末にイタリアで写された S に基づくが、 Σ と比較対照された校訂本を祖とし、この系統を μ と称す。同系統には、ETON, College Library, Ms. 110 (e) と、FIRENZE, B.M.L., Plut.13.1 (F₁) などが属す。e は 14 世紀第 2 四半期もしくは第 3 四半期にイタリアで写され、1450 年にはベルナルド・ベンボ (Bernardo Bembo) の所蔵となり、その後 1715 年に Eton college Library に収蔵された。F₁ は 14 世紀のパドヴァで写され、欄外にはムッサートの注釈が記されている。

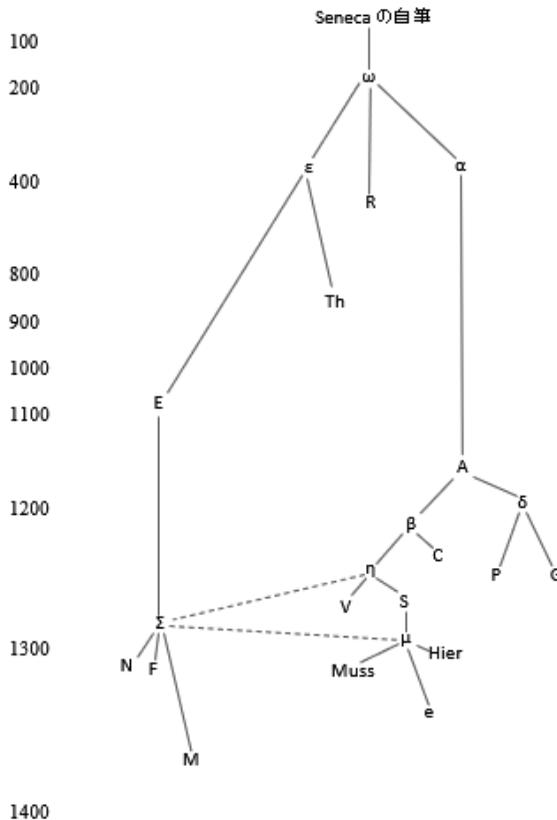


図 1：セネカ作の悲劇群の伝承系統図⁽¹²⁾

3. ヴェローナ人文主義におけるセネカ作の悲劇群

ヴェローナのカピトラレ図書館にセネカ作の悲劇群が収録された中世写本は現存しないが、*Flores1329* と Vat.lat.5114 には偽作 *Octavia* を含む 10 篇の悲劇からの断片が広く引用されており、13 世紀末から 15 世紀前半におけるヴェローナ人文主義においても同作品群は重要な役割を担ったと推察される。ヴェローナ人文主義におけるセネカ作の悲劇の役割は、パドヴァのそれに比べ重要視されず、今日まで体系的な研究は行われなかったが、本研究においては、上記の 2 巻の『ラテン文学詞華集』に収録された断片の引用元を特定し、異読を比較対照することで、往時にヴェローナに存在したであろうセネカ作の悲劇群が収録された校本 Vx の足跡を追った。

VERONA, Biblioteca Capitolare, CLXVIII に書き写された *Flores1329* においては、セネカ作とされる 10 篇の悲劇から、49 断片が引用されている。採録断片は 18 の章に分配されていることから、原本における各悲劇の配置順は伺い知れないが、*Hercules furens* からの抜粋の幾つかは *in primo tragediarum* (悲劇第 1 番より) と引用元が記されている。各断片に付してあるタイトルは A のそれと一致する。

CITTÀ DEL VATICANO, B.A.V., Vat.lat.5114 本においては、264 片が抜粋されており、この内、43 片が *Flores1329* と共通である。引用文に付されているタイトル、収録順のいずれも A のそれと一致する。

以下に、両詞華集に抜粋されたセネカ作の悲劇の引用元を示す：

Flores1329 と Vat.lat.5114 に共通の断片

Herc. f. 253, 316, 435, 645-646, 656-657, 745-7, 952, 1187, 1238.

Thy. 176-8, 295, 311, 312-3, 330-2, 487, 549.

Phoen. 190-192, 493-4.

Phaedr. 982.

Oedip. 295, 515, 826-827, 850.

Troad. 333, 587, 633.

Med. 109, 161, 162, 163, 194, 199-200, 291.

Ag. 115, 144, 145, 285, 287, 507, 934.

Ps.-SEN. *Oct.* 449, 456.

Herc. o. 600-3, 1833-1836, 1983-1988.

Vat.lat.5114 のみに引用の断片

Herc. f. 251-2, 313-4, 314-5, 337-345, 353, 384-5, 404-5, 409-10, 437, 464,
735-744, 865-6, 922-4, 925, 1237, 925, 1267, 1272-4.

Thy. 39, 205-7, 207-210, 211-2, 213, 214-5, 215-6, 219, 307, 309, 314, 317-8,
344-368, 380-2, 388-90, 402-3, 404-7, 449-53, 468-70, 529, 536, 537, 550-
553, 572, 606-22, 596-605, 883-4, 938-41, 952, 953, 957-60.

Phoen. 193-99, 385-6, 582-4, 597, 624, 625-34, 646-8, 654-9.

Phaedr. 132-5, 204-15, 249, 265-6, 268-9, 353-5, 362-3, 428-30, 440-3, 446,
453, 483-503, 517-9, 559-564, 593-4, 598, 735, 761-6, 824, 978-981, 983-7.

Oedip. 6-11, 82-6, 242-3, 331, 359-60, 385-6, 517, 520, 523-4, 524-5, 526-7,
684, 685, 694, 699-700, 700, 701-2, 703, 703-4, 706, 833-4, 909-910, 980-994,

1019.

Troad. 1-6, 169, 250, 254-264, 271-5, 279-285, 327, 332, 334, 335, 336, 349-351, 425, 495, 536, 574-5, 581, 610, 695-7, 709-710, 786, 812, 909-910, 912-3, 1016-7.

Med. 151-4, 155-6, 159, 176, 196, 221-5, 416, 430, 494, 503, 504-5, 540-1, 559.

Ag. 37-8, 87-9, 101-7, 112-3, 130, 146, 150, 151, 202, 242, 259, 269-272, 279-280, 282-3, 419-20, 426, 510, 611, 665-6, 928, 995, 996, 996.

Oct. 189-192, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 450, 451, 452, 453, 454, 455, 455, 457, 457, 458, 458, 459, 460, 460, 471, 472-6, 561-5, 866, 867, 867, 868-871, 896-8, 924-8.

Herc. o. 104-118, 228-30, 230-2, 233-6, 284-7, 350, 357, 378, 406, 441-2, 447, 472, 481, 604-699, 713-4, 754-5, 885-6, 889, 922, 929-30, 1353-4, 1971.

Flores1329 のみに引用の断片

Herc. f. 1237.

Oedip. 817-818, 820-821.

まず、*Flores1329* と Vat.lat.5114 共通の 43 片を比較対照してみる（対照表中では、前者を Ve、後者を Va と表示する）。以下に示す 7 か所の批評点において、*Flores1329* と Vat.lat.5114 は共通の誤読に一致する。其の内、3 か所における誤読は、AE 双方に対峙することから、Vx より伝達されたものであると

考えられる：

Ag. 144. consilium *Ve Va*] casum *AE μ* 145. certa *Ve Va*] ceca *AE μ*

Herc. o. 600. fatum *μ Ve Va*] casum *AE*

3 か所においては、A の誤読と一致、E と対峙する：

Ag. 507. in magnis *A μ Ve Va*] ars cessit *E*

Oct. 449. esse *A μ Ve Va*] ipse *recc.* : *deest E*

Herc.o. 1835-6. vetat... iubet *A μ Va*, (vetari) *Ve*] vetant... iubent *E*

1 か所においては、E の誤読と符合し、C を除く A と対峙する：

Phoen. 190. putas *E C μ Ve Va*] petas *δ η*

以上 7 か所の批評点における比較対照から、*Flores1329* と *Vat.lat.5114* に採録の断片の出典元 *Vx* は A に基づくが E と比較対照された校本であり、*μ* と類似の伝達経路を経ていることが推定される。この仮定を検証する為、*μ* に属する e と *F*₁ を比較対照した (対照表中において、*μ* は e と *F*₁ 一致の異読を示す)。

e と *F*₁ は、上記 7 対照点の内、5 か所において *Flores1329* と *Vat.lat.5114* 共通の異読に一致する。其の内、1 か所は両詞華集特有の誤読、3 か所は A に由来し、1 か所は E のヴァリエントと符合する。

比較対照を *Vat.lat.5114* 採録の全 264 片に広げると、上述した *Vx* の特徴がより鮮明になる。以下に示す通り、数多くの批評点で e、*F*₁、*Vat.lat.5114* は A のヴァリエントに一致し、E の異読に対峙する：

(e F₁ Va = A) ≠ E 計 70 批評点

Thy. 207. quam... tam A μ Va] tam... quam E 344. reges A μ Va] regem E
347. trabes A μ Va] fores E 353-7. non quidquid ~ feruens area messibus
Va e A, (non quidquid ~ aluero) *suppl. mg. F₁] om. E* 359. obliqui A μ
Va] obliqui E 361. rapidus A μ Va] rabidus E 363. militis A μ Va] immi-
tis E 469. alta A μ Va] magna E

Phoen. 197. velle A μ Va] nemo E 198. non concupiscit A μ Va] concupi-
vit E 582. ferum A μ, ferrum sic Va] ferus E 631. gladius A μ Va] gladio
E 632. petit A μ Va] petis E 657. ista A μ Va] ipsa E

Phaedr. 208. vilis A μ Va] ullus E 213. cohercet modico A μ Va] coerent
modica E 249. pars A μ Va] par E 428. audire A μ Va] audere E 441. at
si quis A μ (+*Hierem*) Va.] antiquis E 496. aut A e Va, haud F₁] non E
560. cuius A μ Va] huius E 764. vere... prata A μ Va] prata... vere E 598.
honesta A μ Va] non ista E 767. sed noctem A e Va] et noctem F₁ : et
noctes E 769. rose A μ Va] comae E 775. sed A μ Va] te E

Oedip. 523. nulla A μ Va] ulla RE 694. res secunde A μ Va] dest secunda
E 702. omne odit A μ Va] odit omne E | dubium putat A μ Va] dubium
est eat E 980. timuisse A μ Va] metuuisse E

Troad. 633. sero A μ Va] scire E

Med. 430. potentes A μ Va] potentem E

Ag. 279. carens A μ Va] vacans E 507. in magnis A μ Ve Va] ars cessit E

Oct. 1-983 A μ] *deest E* *Oct.* 449. esse A μ Ve Va] ipse *recc. : deest E*

450. esse $A \mu Va$] ipse *recc.* : *deest E*

Herc. o. 108. luminis $A \mu Va$] fluminis *E* 231. pepulit $A \mu Va$] rapuit *E*
 233. dolor $A \mu Va$] furor *E* 284. potius $A \mu Va$] peius *E* 605. aula $A \mu$
 Va] aia *E* 607. cum $A \mu Va$] quem *E* 608. populis μVa] populos *E* :
deest A 617. convocat $A \mu Va$] concitat *E* 628. cingat $A \mu Va$] iungat *E*
 629. intraque $A \mu Va$] extraque *E* 635. secent arva $A e Va$, (secet) F_1] se
 centauraria *E* 636. donat Va , donet $A \mu$] ponit *E* 638. aliquos $A \mu Va$]
 alios *E* 654. ipsa $A e Va$] illa *E* 667. seres arboribus $A e Va$] arboribus ser
E 680. se(c)cat $A \mu Va$] petens *E* 692. volet $A \mu Va$] sonet *E* 693. nocet
 turba Va , vocet turba $A \mu$] vocent verba *E* 713. premere... deus $A \mu Va$]
 promere... deos *E* 1835-6. vetat... iubet $A \mu Va$, (vetari) Ve] vetant...
 iubent *E* 1836. vetat... iubet $A \mu Va$] vetant... iubent *E* *Herc. o.* 1984.
 vivite $A \mu Va$] vivunt *E* 1985. s(a)eva $A \mu Va$] sola *E* 1988. pandet $A \mu$
 Va] pagens *E*

1 か所の批評点では、A のサブアーキタイプ β の誤読と、他の 1 か所では δ のヴァリエントと一致している：

Thy. 605. divitias $\beta \mu Va$] divinat *E* : divinas δ

Oct. 450. tibi $\delta \mu Va$] sibi β

2 か所の批評点では、 F_1 と Vat.lat.5114 が A に一致する。一方、e は E に符合する：

$(F_1 Va = A) \neq (E = e)$

Ag. 279. prodest A F₁ Va] prodest vita E e

Herc. o. 684. lacias A F₁ Va] placidas E e

5 箇所 の 批評 点 にお いて は、e、F₁、Vat.lat.5114 共 に E と 一 致 す る。特 に、A にお いて 欠 落 し て い る *Phaedr.* 264、*Med.* 156、*Herc. o.* 607b-608 の 3 節 が E から 補 完 さ れ て い る 点 が 注 目 さ れ る：

Phoen. 190. putas E C μ Ve Va] petas δ η

Phaedr. 264-5. haud quis quam ad vitam facile revocari potest / prohibere nulla ratio periturum potest E, (haut... perituram) F₁, (prohibere ~ periturum ante haud) e Va] haud ~ potest deest A

Med. 156 et clepere sese magna non latitant mala E μ Va] deest A

Herc. o. 607b-608 stipas eas in tot populis E F₁ Va, stipas eas e] om. A
664. bibit E μ Va] bibis A

3 か所 の 批評 点 にお いて は、e と Vat.lat.5114 は E に 一 致 す る。一 方、F₁ は A に 符 合 し て い る：

$(e Va = E) \neq (A = F_1)$

Troad. 274-275 sic A F₁] invers. E e Va

Ag. 38. incert(a)e E e Va] inceste A F₁

Herc. o. 228. felix E e Va] paciens A F₁

1 か所の批評点においては、F₁ と Vat.lat.5114 は E に一致する。一方、e は A に符合している：

(F₁ Va = E) ≠ (A = e)

Phaedr. 498. sufficit E F₁ Va] suffigit A e

3 か所においては、e、F₁、Vat.lat.5114 は、A とも E とも異なる特有の異読に一致する：

(Va = e F₁) ≠ A ≠ E

Thy. 355. claro μ Va] caro A : deest E

Herc. o. 600. fatum μ Ve Va] casum AE 619. clarusque latus e Va, (latas) F₁] clarus totas E : clarusque datas A

以下に挙げる 11 の批評点においては、e の第一稿が校訂されており、修正後の読みは F₁ と Vat.lat.5114 に一致する。この内、7 か所の批評点において、e は第一稿が削られた後、A の異読に修正されている（修正後の読みを以下 e^c と称す）：

(F₁ Va e^c = A) ≠ (E = e eras.?)

Herc. f. 353. ad invidiam A e^c F₁ Va] invidiam E : te invidiam recc.

Phoen. 195. ipsi ceu video $A e^c F_1 Va$] ipse cui deo E 656. et $A e^c F_1 Va$]
hoc E

Phaedr. 205. appetens $A e^c F_1 Va$] appetit E

Oedip. 700. fatetur $A e^c F_1 Va$] meretur E 991. it $A E^c Va$, (-d eras.) e^c] id
 E

Herc. o. 695. meos $A F_1 Va$, (o sscr.) e^c] meas E

4 か所の批評点においては、e の第一稿 (e^1) は E と一致するが、欄外に A の異読が記されている（欄外に記された異読を mg. e^2 と表記する）：

$(F_1 Va$ mg. $e^2 = A) \neq (E = e^1)$

Phoen. 627. regie $A F_1 Va$, mg. e^2] graeciae $E e^1$

Phaedr. 440. hic quidem vivat $A F_1 Va$, mg. e^2] ille cum vinia est $E e^1$ 490.
ac $A F_1 Va$, mg. e^2] aut $E e^1$

Oedip. 685. dies $A F_1 Va$, mg. e^2] fides $E e^1$

1 か所の批評点において、Vat.lat.5114 は E と一致する。一方、e と F_1 は A に符合する：

Herc. o. 229-30 vultusque suos variare potest $E Va$] *deest* $A \mu$

1 か所の批評点においては、 F_1 は E における修正と一致し、A、e、Vat. lat.5114 に対峙している：

AE e Va = ≠ E^{2c} F₁

Oedip. 980. agatur AE e Va] agimur (ex ageri-) E^{2c}, F₁

結論

Flores1329 と Vat.lat.5114 共通の 43 片において、両詞華集は 3 か所の批評点で A μ の、1 か所では E μ の、他の 1 か所では μ の誤読に一致する。また、2 か所においては、AE μ のいずれにも対峙する誤読に一致しており、*Flores1329* と Vat.lat.5114 は、14 世紀ヴェローナに存在していたであろう校本 Vx から抜粋された断片を採録した詞華集であることが証明された。

全 99 か所の批評点の内、Vat.lat.5114 は 85 か所 (86%) において e と一致、95 か所 (96%) では F₁ と符合する。

e、F₁、Vat.lat.5114 の 3 者は 73 か所 (74%) において A の読みに一致し、5 か所 (5%) で E に符合する。Vat.lat.5114、e、F₁ は 3 か所 (3%) において一致し、AE に対峙する。Vat.lat.5114 と F₁ は、11 か所において e^o/e² と A に一致し、総じて、A、F₁、Vat.lat.5114 の符合する批評点は 86 (87%) になる。

以上の検証の結果、 μ 系統のサブアーキタイプにおいては、 Σ を経由した E との比較校訂がしてあるが、A の異読が注記してあり、校訂の痕跡が残されて

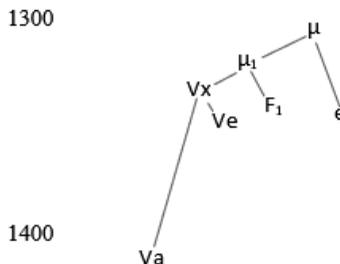


図 2：ヴェローナにおけるセネカ作の悲劇群の伝承系統

いたことが分かった。e は上述の草稿の状態を記録しているが、Vx とパドヴァで同世紀に書き写された F₁ においては、e における第一稿は省かれ、再校訂 (e^o/e²) だけが決定稿として書き写されていたことも判明した。よって、Vx は μ に由来するが、F₁ と共通のサブアーキタイプ μ_1 から写本されたと本論文では結論付けた。

しかし、ライヴァルであったパドヴァに流布していた写本系統 μ が、如何なる所以でヴェローナにも伝わったかという疑問が残る。ムッサートは、1314 年のパドヴァーヴェローナ戦争の際、敵国の捕虜になり、獄中でヴェローナの官僚であったアレッサンドリアのベンツォと交流があった。この史実から、ムッサートとベンツォの間に芽生えた友情を通じて、セネカ作の悲劇群はヴェローナに伝わった可能性があるかと推察できるかもしれないが、これは検証不可能な仮定の粋を出ないであろう。 μ がヴェローナに伝わった経緯は定かでないが、セネカ作の悲劇の探求においては、パドヴァが先端を進んでいて、ヴェローナはそれに追従したという事は確かである。

注

- (1) SABBADINI, *Le scoperte e Storia della cultura veneta, Il Trecento* を参照のこと。
中世ラテン語教育においては、古典作品から引用した例文集、いわゆる *Florilegium* (詞華集) が重要な役割を果たした。*Florilegium* とは『様々な花 (Flori-) を摘んだもの (-legium)』という意味の造語で、文学の創作とは模倣に頼ることは避けられないが、単なる「猿真似」ではなく、多様な作品から抽出したエッセンスを調合して独自の作風を確立せねばならないという、ホラティウス (HORATIUS, *Carmina*, IV 2, 27-32) やセネカ (SENECA, *Epistulae ad Lucillum*, IX 84, 2-9) によって用いられた暗喩に由来する。
- (2) *Flores1329* の批判校訂版については KITAMURA, *Flores1329* を参照のこと。同詞華集には、1832 断片が採録されており、その引用元はローマ古典のみならず、プラトンやアリストテレスなどのギリシャ古典の中世ラテン語訳、初期教会教父のラテン語著作及びギリシャ語作品のラテン語訳、12 世紀の文芸復興時代の作品と、広範囲に及ぶ。引用作品のジャンルも幅広く、タイトルにある倫理を問うた作品 (moralium)

のみならず、歴史書、英雄叙事詩、哀歌、悲劇及び喜劇、書簡集、博物誌、自然科学、農業や兵法などの実用書、ローマ法典及び教会法典、聖書及びその解釈書に及ぶ。1832 片の引用文は、倫理学的見出しと共に、3 巻 - 38 章に分配されている。TURRINI によると、CLXVIII 写本は、1334 年にヴェローナ近郊のヴァルポリチェッラにおいて行われた地勢調査を記録したパリンブセストに上書きされていることから、*Flores1329* の原本ではない。同写本は、巻末の覚書によると、少なくとも、16 世紀の初め（1502 年）に至るまで、当地のダル・モンテ伯爵家に所蔵されていた。その後 18 世紀に、同伯爵家の末裔で、古物収集家として知られるシピオーネ・マッフェイ（Scipione Maffei）によってカピトラレ図書館に寄贈されたことが巻頭の保護紙に覚書されている。古典文献学者であるサッパディーニが *Flores1329* の重要性に気付いた後（前述 SABBADINI, *Le scoperte* を参照のこと）、同写本は数多くの文献学者の研究対象となった。ウルマンは、中世においてほとんど知られていなかったカトゥルルス、ティブルルス、ペトロニウスの作品からの引用文についての考察を発表した（Ullman I, II, III を参照のこと）。その他、同写本は、*Albii Tibulli aliorumque carmina* / edidit G. LUCK, Stuttgart, 1988、*Flavii Cresconii Corippi Iohannidos* / ediderunt I. DIGGLE et F.R.D. GOODYEAR, Cambridge, 1970、*Dracontii Carmina profana* / introduction par J. BOUQUET et E. WOLFF, texte établi et traduit par J. BOUQUET, Paris, 1995、*Publilii Syri mimi Sententiae* / recensuit G. MEYER, Leipzig, 1880 において対照欄に用いられた。グロス Jr. は、ウルマン指導の下、*Flores1329* の編纂出版を試みたが、誤読の対照批判が不十分、引用元の特定がされていない断片が多いなど、数多くの問題が未解決のまま残った（Ch. GROSS, *The Verona Florilegium of 1329* を参照のこと）。本論文の執筆者は *Flores1329* の批判校訂版の刷新を試み、2 片を除いて全ての断片の引用元を特定すると共に、その伝承系統の分析も試みた。

- (3) 批判校訂版については KITAMURA, *Vat.lat.5114* を参照のこと。CITTA DEL VATICANO, B.A.V., *Vat.lat.5114* は、セネカ、キケロ、アリストテレスなどの古典作品、ヒエロニウムスやアウグスティヌスなどの初期教会教父の作品から引用された 2886 断片を採録した詞華集である。ピツラノヴィッチは、引用された作品が *Flores1329* のそれと類似していることから、*Vat.lat.5114* はヴェローナに由来すると推定したが、この仮定を実証しなかった（BILLANOVICH, pp. 130-133）。本論文の執筆者は、*Vat.lat.5114* に引用されている 2886 片の内、683 が *Flores1329* と共通で、比較対照の結果、この 683 片は共通のソースから抜粋されたことを証明した。
- (4) *Texts and transmission*, pp. 378-381.
- (5) *Texts and Transmission*, p. 381. *CLA*, Part III, n.346. ZWIERLEIN, *Senecae tragoe-*

diae, Praef., p. xxii. *Medea* 196-274, 694-708, *Oedipus*, 395-432, 508-45 が収録されている。

- (6) 9 世紀末にフランス中部もしくは南部で写された Paris, B.N.F., Lat. 8071 は、ユウエナリス、マルティアリス、カトゥッルスなどの詩歌を採録したラテン詩選集で、ジャック・ドゥ・トゥー (Jacque de Thou) が所蔵したことから *Florilegium Thuaneum* と呼ばれる。セネカ作の悲劇から *Troades* 64-163, *Medea* 579-594, *Oedipus* 403-404, 429-431, 445-448, 465-471, 503-508, 110-136 の 8 断片が 57 葉裏から 58 葉表のセクションに抜粋されている。
- (7) *Texts and Transmission*, pp. 380-381. E はイタリアの中南部にあるモンテカッシーノで写本された後、ボンポーサの修道院に収蔵された。同修道院の 1093 年版蔵書目録に記録されている。
- (8) *Texts and Transmission*, pp. 379-380.
- (9) N の巻末には、『1303 年にバドヴァの使節としてローマに派遣された』事を、所蔵者であったロランド (Ego Rolandus de Plazola) が覚書している：

M.CCCIII. mense januaris, ego Rolandus de Plazola, dum Rome essem legatus civitatis Padue. Apud ecclesiam Sancti Pauli forte inveni et vidi marmo reum cum huiusmodi litteris « M.A. Lucano cordubensi poete beneficio Neroni Caesaris fama servata ».

- (10) ジェレミア・ダ・モンタニョーネが編纂した *Compendium moralium notabilium* には、プラトン、アリストテレス、セネカ、キケロなどのギリシャローマ古典から引用した膨大な断片が、倫理学的見出しと共に、4 部 - 25 巻 - 368 章に分配されている。セネカ悲劇からは 92 片が抜粋されている。同詞華集は、14 世紀から 15 世紀にかけて広く流布し、現存する中世写本は 70 を超える (ULLMAN IV を参照のこと)。また、1505 年にヴェネツィアで印刷出版され、中世以後もその重要性を失わなかったことが伺える。
- (11) SABBADINI, *Le scoperte*, pp. 113-114.
- (12) ZWIERLEIN, *Senecae Tragoediae*, Praef., p. xx に掲載された伝承系統図に基づくものである。Σ を祖本とする FMN は、Zwierlein の系統図では並列に配置されており同年代の様に扱われているが、本論文においては、N は 1303 年以前の写本、F は 14 世紀初頭のもの、M は 14 世紀第 4 四半期に書かれたことを考慮し、写本年代の差を反映した配置とした。尚、本論文で論じられていないサブアーキタイプ及び写本は伝承系統図から省略した。

参考文献

【セネカ悲劇の批判校訂版】

L. Annaei Senecae Tragoediae. Incertorum auctorum Hercules (Oetaeus), Octavia / recognovit brevis adnotatione critica instruxit O. ZWIERLEIN, Oxford, University Press, 1991⁴.

Ag. = *Agamemno*

Herc. f. = *Hercules furens*

Herc. o. = *Hercules oetaeus*

Med. = *Medea*

Oedip. = *Oedipus*

Phaedr. = *Phaedra*

Phoen. = *Phoenissae*

Thy. = *Thyestes*

Troad = *Troades*

PS-SEN. *Oct.* = PSEUDO-SENECA, *Octavia*

【本論文で参照した詞華集】

GEREMIA DA MONTAGNONE, *Compendium moralium notabilium*

= *Epytoma sapientie*, incipit compendium moralium notabilium compositum per Hieremiam iudicem de Montagnone ciuem Padouanum..., Uenetiis Impressum Anno MDV 1505, Petrus Liechtenstejn.

Ch. GROSS, *The Verona Florilegium of 1329*, Diss. Chapel Hill, 1959.

KITAMURA, *Flores1329*

= H. KITAMURA, *I flores moralium auctoritatum del 1329*, Tesi di laurea specialistica, A.A. 2008-2009. Relatore: Prof. M.A. Feo.

KITAMURA, *Vat. lat. 5114*

= H. KITAMURA, *Due florilegi e il pre-umanesimo veronese tra il XIV e il XV secolo – i codici Città del Vaticano, Biblioteca Apostolica vaticana, Vat. lat. 5114 e Verona, Biblioteca Capitolare, CLXVIII (i Flores moralium auctoritatum del 1329)*, Tesi di dottorato di ricerca in Letteratura e Filologia Italiana, Anni 2011/2013. Relatore: Prof. D. Coppini.

【本論文で参照した中世写本】

CAMBRIDGE, Corpus Christi college Library, Ms. 406.

ETON, College Library, Ms.110.

FIRENZE, Biblioteca Medicea Laurenziana (= B.M.L.), Plut.37.1.

IBID., Plut.37.13.

PARIS, Bibliothèque Nationale de France (= B.N.F.), Lat. 8071.

IBID., Lat. 8029.

CITTÀ DEL VATICANO, Biblioteca Apostolica Vaticana (= B.A.V.), Vat.lat.2829.

IBID., Vat.lat.5114.

VERONA, Biblioteca Capitolare, CLXVIII.

【諸研究】

BILLANOVICH, *Petrarca e i libri*

= G. BILLANOVICH, *Petrarca e i libri della cattedrale di Verona*, in *Petrarca, Verona e l'Europa. Atti del Convegno internazionale di studi, Verona, 19-23 sett. 1991*, a cura di G. BILLANOVICH – G. FRASSO, Padova, Antenore, 1997, pp. 117-78

SABBADINI, *Le scoperte*

= R. SABBADINI, *Le scoperte dei codici latini e greci ne' secoli XIV e XV*, Firenze, Sansoni, 1914.

TURRINI

= G. TURRINI, *L'origine veronese del cod. CLXVIII (155)*, «Atti della Accademia di agricoltura scienze e lettere di Verona», ser. VI, vol. XI (1959-1961), pp. 49-65.

ULLMAN I

= B.L. ULLMAN, *Tibullus in the Medieval florilegia*, « Classical philology », XXIII (1928), pp. 128-74.

ULLMAN II

= B.L. ULLMAN, *The text of Petronius in the sixteenth century*, « Classical philology », XXV (1930), pp. 128-54.

ULLMAN III

= B.L. ULLMAN, *The transmission of the text of Catullus*, in *Studi in onore di Luigi Castiglioni*, II, Firenze, Sansoni, 1960, pp. 1027-57.

ULLMAN IV

= B.L. ULLMAN, *Hieromias de Montagnone and his citations from Catullus*, in Id.,

Studies in the Italian Renaissance, II, ed. with additions and corrections, Roma, Edizioni di storia e Letteratura, 1973, pp. 81-133

ZWIERLEIN, *Senecae Tragoediae*, Praef.

= *L. Annaei Senecae Tragoediae*. cit. super, Praefatio.

Storia della cultura veneta, Il Trecento

= *Storia della cultura veneta*, vol. II, *Il Trecento*, Vicenza, Pozza, 1976.

Texts and transmission

= *Texts and transmission*, a Survey of the Latin Classics, edited by L.D. REYNOLDS, Oxford, University Press, 1983.

【写本の図録集】

CLA

= *Codices Latini Antiquiores* : a paleographical guide to Latin manuscripts prior to the ninth century / edited by E.A. Lowe.

Part. III, Italy : Ancona-Novara, Oxford, University Press, 1938.

【対照表中の略記】

eras. = *erasit* (削った)

invers. = *inversit* (語順が逆)

mg. = *in margine* (欄外余白に)

om. = *omisit* (欠落した)

recc. = *codices recentiores* (比較的年代の新しい写本)

sscr. = *superscripsit* (上書きした)

suppl. = *supplevit* (補完した)